

山唄 ほな

江戸の名残りを楽しむ夕べ

『千変万化』

企画・解説 上村幸以

日時 平成三十二年十二月二〇日(月)五時三十分開場

六時開演

指定席 入場料 五〇〇〇円

番

組

一、小

唄

明治一代女(大雪や)
せかれせかれて

春 日やよ小宏
春 日やよ美輪
春 日やよ奈世

一、小

唄

昔は昔(あの頃の)
あごでしらせて

蓼 扇 よし和
蓼 津満子

一、小

唄

白 菊
富士見西行

蓼 胡 茂
蓼 津満子

一、小

唄

お絹仇夢

峰 村 好美佐
峰 村 好由女
竹 枝 せん男

一、小

唄

明 月 や
半 ぞ め

竹 枝 せん男
竹 枝 せん男
竹 枝 紋 寿

一、小

唄

世の中さまさま
三つの車

吉 川 明貴子
小 唄 幸三

一、小

唄

ひょうたん
三人上戸

春 日やよ徳花
春 日やよ美輪

一、小

唄

緋鹿の子
好きと嫌い

千 紫 章 恵
千 紫 巳 恵

一、小

唄

うその固まり
うらむぞえ(お互いに)

小 唄 幸女
小 唄 幸三

一、小

唄

神 かけて
土手を通るは

飯 島 ひろ子
飯 島 ひろ子
飯 島 ひろ子

一、小

唄

表 門
一文たりないよ

菊 地 満 佐
菊 地 芳 月
菊 地 芳 月

一、小

唄

凍 る 夜
風 神 雷神

春 竹 利 昭
吏 美 いち絵

特別コーナー「新唱待機」

一、小

唄

色気ないとして
雪のあした（朝ぼらけ）

蓼 鈴 緒
奈 美 輝

一、小

唄

明治は忘れぬ（柳橋から言問へ）
お宝

千 紫 秀 美
千 紫 巳 恵

一、小

唄

涙ぐせ
雪をかむって

長 生 松 代
長 生 真 帆
長 生 芙 美 代

一、小

唄

落人の色香
茶の科

蓼 津 留 染
蓼 胡 満 和

一、小

唄

心でとめて
われが栖所

春 日 々 津 多
春 日 々 よ 五 幸
春 日 々 よ 奈 世

一、小

唄

三日月の
竹は八幡

蓼 胡 満 佳
蓼 胡 満 千 加
蓼 胡 満 和

一、小

唄

女気
可愛いお方

蓼 津 留 葉
蓼 胡 宏

一、小

唄

一座から
目見得そめし

春 日 々 よ 栄 芝
春 日 々 よ 喜 扇
春 日 豊 芝 洲

一、小

唄

うらぶれし
浮気鶯一二三
世辞で丸めて

佐 々 舟 澄 枝
佐 々 舟 洋

（終演 八時半頃）

東京証券会館ホール

☎〇三（三六六七）九二一〇